

レンサルティング®で時代を拓く

# AKTIO

March  
No.25

## Communication Magazine

AKTIO

### ■ AKTIO TOPICS

会場の様子をレポート!

鉄道技術展  
森林・林業・環境機械展示実演会

3社共同で新開発!

建設現場用施工ロボット

最新鋭の物流・研究開発拠点

大阪DLセンター

# KEY PERSON

に聞く

設立55周年、さらなる飛躍の年へ!

創業者 小沼光雄会長が語る  
AKTIOの成長、目指す未来。

代表取締役会長 CEO

## 小沼 光雄

MITSUO KONUMA

東京オリンピック開催の1964年、資本金3万円で創業。大学卒業後、大手建設会社のエンジニアとして活躍した経験を活かし、当時ほとんど輸入品で故障の多かった水中ポンプの修理を請け負うビジネスからスタートした。修理中、工事が止まってしまうと大変だろうと「代替機」を用意し感謝された経験から、「レンタル」という言葉がまだ世の中に浸透していなかった時期に建設機械レンタルのビジネスに乗り出す。信頼してくれる人との約束を守り続け、AKTIOの業績を「倍々ゲーム」で成長させてきた。建設機械レンタルという市場を切り拓き、業界の先駆者として磨いてきた「市況を読み取る力」と「ひらめき」で、現在でもアクティオグループのトップとして、お客様のためになる仕事を自ら創造している。

「設立55周年を迎えるにあたって、会長の想いをお聞かせください。」

節目の年を迎えるにあたり経営について聞かれる機会も増えましたが、そこで振り返ってみると、この1〜2年の会社の成長も、50年前の成長や出来事も、数字の単位こそ違いますが経営で大切にしてきた本質部分に全く違いはなく「同質」のものだと考えています。それを55年間愚直に積み上げてきて、今も連続している、という感じですね。起業の時は資本と言えないような金額からのスタート。そこからどう成長していくか計画を立てて、「目標の数字をいかにして実現させるか」の具体性に重きを置きました。そして現実的に5カ年の所得倍増計画を達成することができたのです。どうしてそんなことができたのかと聞かれると、まず第一に言えるのは「寝る間も惜しんで働いた」ことです。とにかく真面目に生懸命やる、そのために、社員が納得して働ける、努力を惜しまず仕事に没頭できる環境を作るのが経営者の役目だと思っています。

社員と一緒に、常に「夢」を持ち続けてきたから、努力してこれたのだと思っています。自分たちが「ああなりたい、こうなりたい」という夢、理想に向かって信念を持ち、計画を立てて実行してきました。この繰り返しこそが企業人生そのものであって、また喜びであり、幸せなのではないでしょうか。55周年を新たな飛躍の年として、今年から3カ年でグループ総売り上げ5,000億円を達成することが大きな目標です。常に成長を求めて、自分たちのやりたいことを広げていく姿勢が私たちのAKTIO精神。お客様にとって私たちレンタル会社は「便利屋」です。便利屋がさらに便利になって「レンタル屋がこんなことまでやってくれるのか」と言われたい。そのためには、これまでの55年で培ってきたアナログの良さに加えて、デジタルの力、テクノロジーの活用が不可欠です。グループを挙げて力を入れているDXの推進で効率を高め、お客様にもっと付加価値の高いサービスをご提供できるように、社員みんなでデジタル化に取り組んでいます。



「電話1本の便利さから、デジタル化でさらに付加価値を高める」

私にとっては「日々はターニングポイント」なのです。会社の歴史の中で何か転機になったポイントはありますが聞かれれば、そうお答えします。55年前も今も、例えば最近なら「コロナ禍に迎えた社会変化、自然災害、昔で言うところのオイルショックやリーマンショック、金融証券関係の不況など、いつの時代も「山あり谷あり」ですよ。それでもずっと右肩上がり成長できたのは、そういう外的要因を「壁」ではなく、むしろ格好の差別化要因になる「チャンス」として受け止めてきたことではないかと。そして商売をするには「商品単価×数量」に掛け合わせる「市況の読み」を大切にしています。タイミングよく市況を読み、今何をすべきかを即座に考える。この連続が経営の難しいところであり、また醍醐味ではないでしょうか。風の流れを読み、自分たちが

# KEY PERSON

に聞く

AKTIO 設立55周年、さらなる飛躍の年へ！  
小沼会長が語るAKTIOの成長、目指す未来。

「結局は積み重ねでしかない」と、これまでのAKTIOの経営について語る小沼光雄代表取締役会長。AKTIOをたった一代で世界トップクラスの企業に押し上げた小沼会長から出る「積み重ね」という言葉は、企業の姿勢のみならず会長自身の誠実な生き方にもつながっている。そしてその言葉には、私たちが普段耳にするものとは違った重みがある。常にお客様に寄り添い、想いに応えるAKTIOのビジネスは、お客様の課題解決に真正面から立ち向かい、時に無理だと思われることも可能にしてきた。本特集では、関わる全ての人たちに改めて知ってほしいAKTIOの想いについて、小沼会長のリアルな言葉でお届けする。



# 建設DXの具現化へ。最新鋭の物流・研究開発拠点が ついに オープン! 大阪DLセンター

2021年9月、関西を中心とした西日本エリアの物流拠点として大阪DLセンターが開業された。東京に次ぎ2か所目となるDLセンターは、レンタルセンターの中核備え、かつ部署の垣根を越えた活動が特徴。多数のグループ会社やAKTIO内の部署が隔たりなく同じフロアに集まり、お客様からの要望に一丸となって応える体無人フォークリフトや自動ラックによるパレット移動の省人・省力化のほか、重機自動洗車機の設置や自動洗浄に使用する水は雨水循環方式を採用するなど環境にも配慮。さらにICT、IoT、BIM、AIの研究開発と人材育成を担う施設も備えた大阪DLセンターの見どころをご紹介します。

を担う施設として最新鋭の設備を制が整っている。境にも配慮。さらにICT、IoT、



大阪DLセンター  
POINT

測量・計測機器及びIoT・ICT機器の西日本エリアの拠点。「見渡せる作業空間」をコンセプトに設計された約1,050㎡の作業エリアはほぼ死角がなく、常に作業状況が把握でき、効率的な作業が可能。AKTIOでは日本測量機器工業会（JSIMA）の認定を受けており、認定検査員によるJSIMA規格に基づく校正・検査を実施。調整・管理されたカメラと30mの屋内基線に併せ、300mの長距離基線を備え、高度な検査体制を整えている。



通信・IoT・ラボスペース

最新のICT機器やIoT機器などを展示、体験できるスペース。現在はAKTIO独自のVR安全教育システム「Safety Training System VR of AKTIO」を設置。ご来場いただいたお客様や社内の研修に使われている。体験中のVR映像を6画面のマルチモニターに映し出すことも可能。



プレゼンテーションルーム

■ 実験スペース  
4.8tの天井クレーンを常設し、お客様のニーズを元に設計・開発した試作品を実際に作製する。実験依頼にも対応可能。



■ 大庇  
室内系高所作業車の充電ステーション。連結することで、同時に40台充電可能。

■ 洗車場  
2台の自動洗浄ロボットを設置し、毎分50ℓの水量で多様な洗浄ができ、効率化・省人化を実現した。使用する水は、雨水循環方式を採用しており、環境にも配慮している。

■ 屋外ヤード  
屋外ヤードでは2.8t・4.8tの橋形クレーンを1基ずつ常設。西日本エリアで特に需要がある発電機・投光機・道路舗装機械・保安用品・作業足場など様々な商品を保管しており、都市部で需要の高い小型汎用機から重機までワンストップで供給できる体制を整えている。



屋外ヤード

GPSにより配達状況をリアルタイムに把握することが可能。急な依頼に際する際にも、近場の運転手を確認・手配することができ、配送効率を上げることが可能となった。

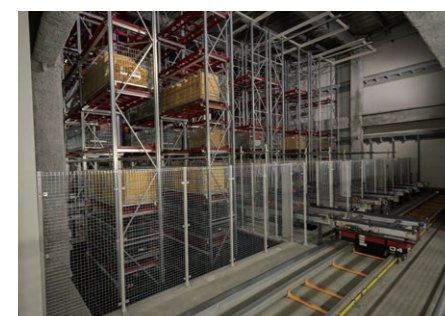


関西圏の各拠点からの注文情報、在庫指示情報、各拠点へ分配するための供給情報など様々な情報を集約し、管理する大阪DLセンターの「心臓部」。



コントロールセンター

## 作業員が「取りに行く」のではなく機械が「持ってくる」。入庫、出庫、仕分けエリア全ての自動化により省人・省力!



■ 自動ラック倉庫  
専用パレットを大・中・小・極小の4種類作成することで売れ筋機種が全て収納可能となる。収納パレット数は合計926台で、これは関西支店の約1か月半分の出庫台数を保管できる収納力となっている。

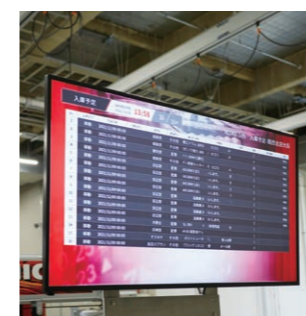
■ AKTIO最大の  
収納パレット数を保有!



■ AGF(無人フォークリフト)  
無人運搬システム

■ 2F  
入庫品の仕分けエリア  
機械の入庫点検を実施しながら、機械の破損・欠品チェック、仕分けなどの作業を行うエリア。

■ 1F  
出庫エリア  
自動ラック倉庫から出てくる機械をピックアップし、出庫準備をするエリア。常時1名以上の作業員が配置されている。



■ 1F  
出庫エリア  
自動ラック倉庫から出てくる機械をピックアップし、出庫準備をするエリア。常時1名以上の作業員が配置されている。



■ 1F  
入庫エリア  
1,200坪のスペースに5人常駐の体制で出入庫の全てに対応する。作業員の動線範囲を小さくすることで、作業時間を短縮し効率化を図った。

■ 1F  
入庫エリア

# 鉄道技術展 2021に出展!

国内唯一の鉄道技術に関する総合展示会である「第7回 鉄道技術展2021」。2021年11月24～26日の3日間幕張メッセで行われ、AKTIOのブースには3日間で多くの来場者があった。2度目の出展となる今回は新商品の軌陸ユニット、衝突軽減システム、サイドバラストユニットを展示。30分ごとにデモンストレーションを行い、限られた時間に安全に、かつ省人化にも貢献できる商品を多くのお客様にアピールすることができた。



## 「発見して」「自動ブレーキ」が作動! 衝突軽減システム

既存の軌陸車にも後付けで自動ブレーキを備えることができる、AKTIOの「衝突軽減システム」。迅速にブレーキをかけることで衝突時の衝撃を可能な限り小さくしようとするこのシステムは、1,024個もの赤外線が15m先にある15mmまでの物体を検知。検知と同時にブレーキが作動するため、空走距離をなくし短時間で停止することが可能だ。その際、運転者には光・音・映像で知らせ、なぜ自動ブレーキが作動したか、何を検知したかは、運転席に設けられたモニターで確認でき、安全を確認した上で運転者が走行を再開できる。



衝突軽減ブレーキを装着した軌陸トラック



車両前方に取り付けられた赤外線センサー。同様のセンサーが後方にも装着されている



運転席のモニターで、検知した物体を確認できる

## Demonstration

### 軌陸自積載クレーン車



「アクティオ軌陸自積載クレーン車」のユニットでの降積載は荷台後方でを行い、荷を前方に移動させる場合は軌条を利用すれば、ブームの起伏を抑えられるため、架線への接触を防げる。また軌条の間に荷物を積み、前後左右の重心位置管理が容易になり、偏荷重による脱輪の危険も軽減できる。

### サイドバラストユニット



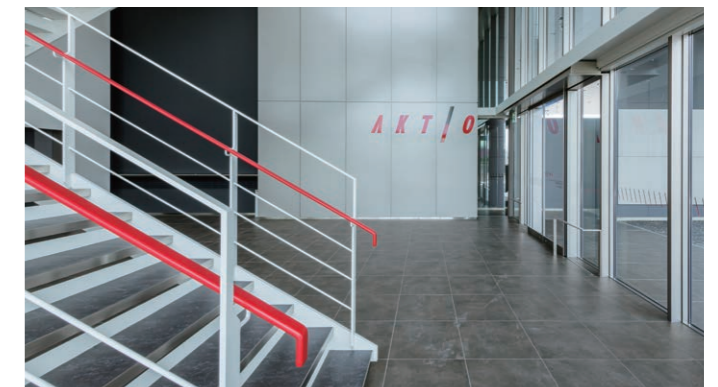
名工建設株式会社との共同開発商品「サイドバラストユニット」。バラストの横撒きが安全かつ省力化できる装置で、後方おりを2分割にすることでバラスト散布方向の制御ができ、左右に散布可能。後方へのはみ出し量は道路交通法の定める範囲内のため、装着したまま道路走行もできる。

## 施設の見どころをダイジェスト!

大阪DLセンター内は、社員が働きやすい設備・環境が整っている。大きな吹き抜けのある階段、ランチタイムや打ち合わせにも使えるラウンジ、そして情報共有がしやすい仕切りのないオフィス、将来の研究開発に対応できる広々としたラボスペース。どこもオープンな空間で過ごしやすいスペースとなっており、日々レンサルティング®の具現化が進んでいる。今後の大阪DLセンターの躍進に期待したい。



広々としたスペースのラウンジ。消毒液の用意など衛生・感染症対策もなされている。



お客様を迎える上でも大切なエントランス～階段のスペース。



大きなガラスが印象的なデザイン。明るい雰囲気オフィス。



徹底的に効率的な動線を計算された屋外ヤード。ひときわ目を引く橋形クレーン。



「自由闊達な議論を交わせる場、お客様の要望に応える設備が整っています。どんどん新しい技術にチャレンジし、商品開発に携わってほしい」と語る山口直保センター長。



### レンサルティング®の具現化、研究と人材育成に

大阪DLセンター内には社員同士がコミュニケーションを持てる場を多く設置。さらに、異なる部署が同じフロアで仕切りなく業務を進めることでお客様からの要望に協力し合って応えるなど、レンサルティング®の好例が生まれている。

## フォワーダからダンプへ積荷を載せ替えず、荷箱ごと載せ替え! FUVスタンションフックロールフォワーダ/FUVスタンションフックロールダンプ

コロナ禍を襲った米国を中心とするウッドショック。木材価格の高騰は日本にも深刻な影響を及ぼしている。しかし、国内の林業は林業従事者の人手不足や高齢化等により、急な増産には耐えられないとされてきた。そこでAKTIOが送り出した「FUVスタンションフックロールフォワーダ/FUVスタンションフックロールダンプ」に関係者の注目が集まっている。ダンプが入れない伐採現場からフォワーダで積荷を運び、中継地点で積載したコンテナをそのままダンプに載せ替えられるのが最大のメリットである。これまで伐採現場から市場に届けるまで積荷を載せ替えるためにかかっていた手間や時間を削減することができ、作業効率を飛躍的に高めることが可能である。



FUVスタンションフックロールフォワーダ



FUVスタンションフックロールダンプ

### STRONG POINT

- 1 積荷を荷箱ごとノンストップで載せ替え可能。
- 2 現場での飛躍的な作業効率化を実現。
- 3 荷箱の積み替えはリモコン操作で簡単便利。

## 注目の展示会出展機械

### ラジコン草刈機「神刈」

AKT/O

遠隔操縦で45度までの斜面の草刈りも可能にする、AKTIOの「神刈」(使用最大傾斜角度45度を検知すると一時停止する安全機能搭載)。草刈り中はエンジン、移動などは電動のハイブリッドに変更できるエコ設計。ツイン形式の刈刃は摩擦に強く、ナイフボルトを使用しているため交換回数も少なく、刈刃の高さも45~95mmまで10mm単位で調整可能。



### 油圧ショベル用草刈アタッチメント「ハンマーナイフモア」

共成システム

油圧モーターに一定流量を供給する専用バルブや制御弁を採用し、安定した草刈り作業を可能にした、共成システムの「ハンマーナイフモア」。油圧取出は、ブレーカ配管(または併用配管)仕様であれば簡単に装着できる。モアと油圧ショベル本体の油圧接続は、ドレン配管不要の油圧モーターの採用でホース2本のみ。ガードレールや用水路越しの法面、丈の高い雑草も楽々作業、省力化を実現。



### ゴム製履帯運搬車「PANTHER」

電

オフロード条件下での効率性を実現し、低接地圧、出力、多用途性を誇るゴム製履帯運搬車のミッドレンジ・モデル、電動舎の「PANTHER」。フレームの横に履帯を動かすモーターが付けられているため、障害物を乗り越えた際に車体を水平に保つ能力が高いのが特徴。さらに操作系は重機などに多いレバーではなく、自動車と同じハンドルなので、ゆったりとした乗車姿勢で運転できるのも見逃せないメリットだ。



### 油圧ショベル用強力木材カッター「グラップルカッター」

SRS Corp.

往復配管1系統で「掘む」「切る」を実現。1台で雑木や竹の切断・分別・積み込みをこなす高い実力を誇るアタッチメント、エスアールエスの「グラップルカッター」。耐磨耗性高張力鋼(スウェーデン鋼400HB HARDOX(ハルドックス))の採用や、油圧ショベルに直付を可能にする超強化ボディ設計により、比類なき頑丈な構造を誇っている。最大切断直径210/250/300mmの3タイプ、ダブルガイドバー付き。



## 第44回全国育樹祭記念行事

# 2021 森林・林業・環境機械 展示実演会

グループ会社を含めた4社による最新技術を実演。  
大いに存在感をアピールした展示会となった。



2021年10月10日、11日、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年ぶりに「2021森林・林業・環境機械展示実演会」が北海道苫小牧市で開催、「全国育樹祭」の記念行事で毎年いずれかの都道府県で行われてきた。本展示実演会のAKTIOのブースは、グループ会社の株式会社共成システム、株式会社電動舎、エスアールエス株式会社が軒を並べ、グループとして強みを生かした出展となった。また、林業に特化した機械に加え、現場にある役立つ機械を展示するなど、総合機械レンタル会社ならではの持ち味を發揮、他社と線を画す展示内容だった。AKTIOが、ブースの中でもっとも広いスペースを割いて紹介したのは、「FUVスタンションフックロールフォワーダ・ダンプ」だ。ダンプが入れない伐採現場からフォワーダで積荷を運び、中継地点で積載したコンテナをそのままダンプに載せ替えられるのが最大のメリットである。共成システムは、バックホー用のアタッチメントや簡易トイレのほか、「AEDスタンド型収納ケース」「救急用応急処置BOX」など、さまざまなシチュエーションでの初期対応に役立つ商品も展示。電動舎は、オフロードでの高い能力性能をもつゴム製履帯運搬車やバッテリー式クローラ屈折高所作業車を披露。そして、エスアールエスは、バックホー用のアタッチメントである集草機能付油圧草刈機「草集力」の展示と、雑木や竹の切断作業をスムーズに行える「木材用カッター付グラップル」の操作実演を行った。この2日間は、AKTIOのグループ力、総合力に加え、機動力が感じられ、存在感を大いにアピールする展示実演会となった。

北海道苫小牧市で3000人に最新技術を実演

ECoCa  
エコカ

機器の運搬・据付を効率よく安全に

3tまでの機器の運搬・据付が行えるロボット



ECoCaは重量のある設備機器の運搬・据付を1台で実現。機器のサイズに合わせて、3方向に自由に伸縮する機能を持つ。X軸(1.8m~2.4mまたは1.4m~1.8m)、Y軸(3.0m~3.7m)、Z軸(2.0m~3.2m)の範囲で自動伸縮し、最大3tまでの機器を吊り下げて移動可能。走行モードは四輪操舵、横行、その場旋回の3種類があり、現場の通路状況に合わせて最適な動線を取ることができ、狭小箇所での機器の設置を可能にした。バンパースイッチや回転灯、非常停止ボタンなどを装備し、安全性も考慮されている。



Carryf  
キャリフ

重量機器資材を効率よく安全に搬送

段差のある場所でも資機材を搬送できるロボット



キャリフは段差のある狭小空間でも重量のある資機材の搬送を可能にする。最大5tまでの資機材を積載したまま走行し、最大200mmの段差乗り越えが可能に。メカナムホイールの採用によって、四輪操舵、横行、その場旋回の3種類の走行モードを実現。また、全周囲を監視するエリアセンサーと障害物に触れると非常停止するバンパースイッチをそれぞれ2か所に設置し、安全性を高めた。運転操作はゲーム用のコントローラーを採用しており、操作しやすく、また壊れてもすぐに取り替えることができる。



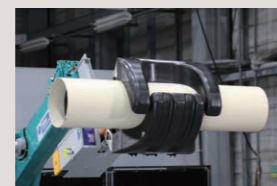
Dexhand  
デクスハンド

多彩な径の配管・ダクトを精密据付

狭小空間で配管の上架・据付が行えるロボット



デクスハンドは起重機が入らない狭小な場所で配管などの揚重作業を可能にする。先端の把持部分には軽量ながら高い剛性を持つ炭素繊維強化プラスチック採用の「スーパーグリップ」を装備し、300~500φの配管をしっかりと把持。先端部は縦・横・旋回が可能のため、自由自在に位置や角度を変えて精密な配管工事を実現。クレーンの吊り台を使用せずに工事できるため、狭小空間でも効率的に作業が可能。モニターには作業可能重量を表示し、三色回転灯で警告するなど安全運転にも配慮されている。



2021年11月18日、報道関係者向けに完成披露会が行われた。

AKTIO、JFEエンジニアリング、岡谷鋼機の3社で

# 建設現場用施工ロボットを新開発!

機器据付施工時間を85%※1削減! プラント工事の効率化、省力化に貢献

AKTIOは、JFEエンジニアリング株式会社、岡谷鋼機株式会社と共同で業界初の施工ロボット3機種を新開発した。アクティオ相模原拠点(旧エスアールエス教習センター)で行われた完成披露会では、ロボットによる発電機の搬送や段差のある狭小空間での資材運搬、口径500ミリの配管取付作業などを実演。変形、旋回、斜め走行など、多彩な動きを紹介した。小沼直人代表取締役社長は「このような役に立つロボットを今後も送り出したい」と述べた。

3機種とも2022年度中の製品化に向けて準備を進めており、プラント工事の生産性向上と省力化、安全性向上に貢献する。建設現場では、狭小空間での配管や機器の据付工程が数多く、事前準備も含め作業に多大な時間と人員が必要だ。人手不足は今後ますます深刻化するため、適用対象となる工事の領域を拡大するとともに、さらなる自動化を進め、最終的にはロボット適用可能工事においては作業員の半減を目指す。

※1 JFEエンジニアリング施工実績、ただし工種による。



左から 岡谷鋼機株式会社 常務取締役 坂田光徳様/JFEエンジニアリング株式会社 代表取締役副社長 四方淳夫様/株式会社アクティオ 代表取締役社長 小沼直人

披露会風景



### 3 Theater zone (シアターゾーン)

レンサルティングの実例を大画面で見ることができる。映像の内容は建機の形の「レンサルティングオブジェ」を設置することで選択する仕組み。ただ見るだけでなく興味を持って触れ、選ぶというワンアクションがポイント。



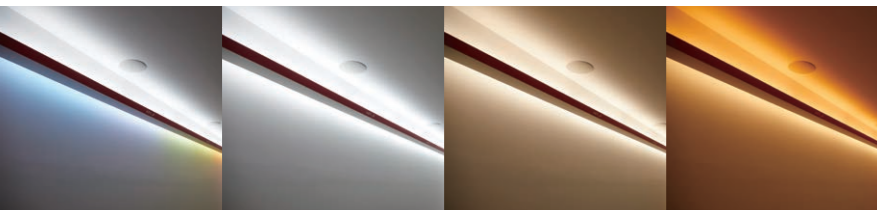
### 4 Experience zone (体験ゾーン)

展示会でも人気の安全教育VRの体験が可能。高画質5K解像度のスーパーリアル映像と歩行型VRデバイスを用い、実際に体を動かしながら現場の「不安全(危険)行動〜事故」を疑似体験できる。さらに、最新の設備と高度な情報システムが整う「東京DLセンター」、整備や研究開発、防災拠点の場として活躍する全国の「テクノパーク」をVR映像モニターやVRゴーグルで体感できる「VR工場見学」も備えている。



### 5 Lecture room (レクチャールーム)

ワークショップやセミナーを行う、学びと情報発信のスペース。オンライン配信スタジオとしての機能も完備。



#### 日本初のショールームライティング

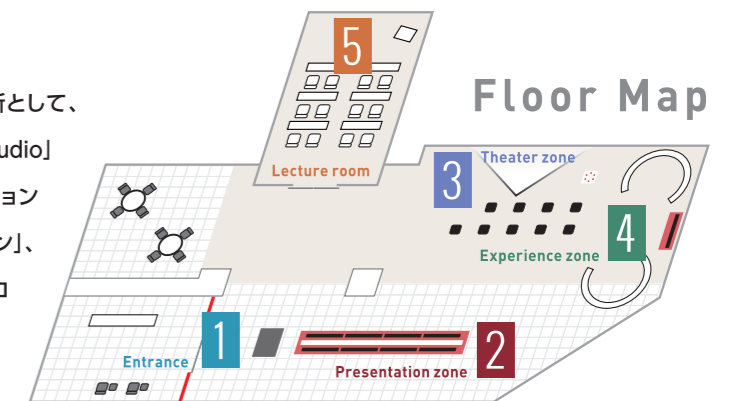
遠藤照明の「コントロールできる照明:次世代調光調色シリーズ「Synca」」の技術を企業ショールームとして日本初採用。用途シーンに合わせた光環境で、さまざまな光の空間を演出できる。



2022年1月18日ついにオープン! AKTIOの目指す未来が見える場所

# RENSULTING STUDIO

AKTIOの「今」と、これまでの技術の積み重ねをよりよく知ってもらえる場所として、東京の本社1FにAKTIOのビジネス向けショールーム「AKTIO Rensulting Studio」がオープンした。AKTIOの歴史や取り組みを紹介する「プレゼンテーションゾーン」、工場見学や現場の不安全行動をVRで疑似体験できる「体験ゾーン」、建設機械の映像が大画面で映し出される「シアターゾーン」など、様々なコンテンツを揃え、多彩なスペースで「レンサルティング®」に「見て・触れて・体感」していただける場所となっている。



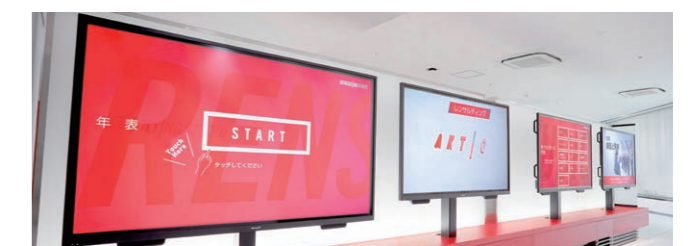
### 1 Entrance (エントランス)

お客様をお迎えする最初の展示は印象的な「ホログラム」。重く、大きさがあり展示が難しいAKTIOの建機をリアルに感じてもらえるよう、浮かび上がる3D映像で映し出している。



### 2 Presentation zone (プレゼンテーションゾーン)

合計8面の大型モニターによるインタラクティブ映像で、AKTIOの創業からの歩みや取り組み、レンサルティング事例などを紹介。お客様の興味に合ったものを自由に閲覧できるようになっている。



#### ご来館は**完全予約制**となります。

AKTIO営業担当を通じて事前にお申し込みください。

- 所在地  
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-12-2  
朝日ビルディング1F
- 交通  
都営地下鉄浅草線、東京メトロ東西線・銀座線  
「日本橋駅」出口より徒歩5分  
JR各線ほか「東京駅」八重洲口より徒歩10分
- 開館時間  
10:00～17:00(完全予約制)
- 休館日  
土・日、祝日、夏期休暇、年末年始



#### 2022年1月17日にAKTIO Rensulting Studio 完成プレス発表会を開催

報道関係各社が多数集まり盛況だったプレス発表会。プレゼンテーションゾーンでは専門分野のレンサルティング®事例を見ることができ、体験ゾーンではVR機器を用いた「まるで現地にいるような」工場見学や、現場の不安全行動の疑似体験などを行った。ビジネス向けショールームのため一般には開放せず完全予約制となるが、将来的には近隣の小学生の自由研究などに活用してもらえるよう施設を開放するなど、様々な用途が検討されている。





今日も  
**ごあんぜんに**  
みんなで守る、みんなの安全

**+** 今回のテーマ

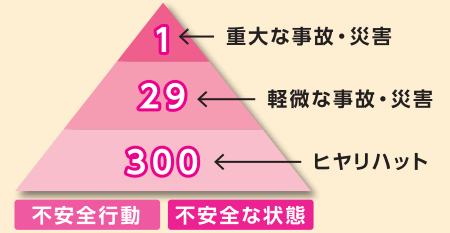
**油断せずに見直そう！  
ヒヤリハットとその事例**

日頃の安全対策に役立つ情報をご紹介します！

一人ひとりがしっかりと意識をもって、安全な職場を実現していきましょう。

**1件の重大な事故、災害に対して  
300件のヒヤリハットが存在している**

ヒヤリハットとは、重大な災害や事故には至らなかったもののそうならぬもおかしくない、「事故一歩手前」の事例の認知のことを指します。突発的な事象やミスに「ヒヤリ」としたり、「ハット」としたりすることからこう呼ばれていますが、「ヒヤリとしたけど、まあ事故にならずによかった」と見過ごしてしまっていていい問題ではありません。重大な事故、災害を防ぐために事例をよく知り、不安全行動や不安全な状態を取り除く必要があります。



**ヒヤリハット事故と災害との関連を示す法則**

この図はハインリッヒの「1:29:300の法則」。1件の重大事故、29件の軽微な事故に関して300件のヒヤリハット事例が存在することを示しています。そしてヒヤリハットの背後にはさらに多くの不安全な行動や不安全な状態があるのです。

**事例を確認し、安全対策を！** | 建設業のヒヤリハット事例を紹介します。ぜひ確認してみてください。



- ダンボール入り床材をトラックに積み、シート掛け作業を行う際、荷とあおりの間を移動中に足元がふらつき転倒しそうになった。
- 建設工事現場の作業床で、布板を結束してあった番線につまずいたが、とっさに枠組足場の筋交いにつかまって、転倒をまぬがれた。
- 天井内配管の不具合点検のため、ちょっとした作業と思い、1.2mのアルミ製脚立の開き止めをセットせずに点検中、体重の傾きにつれ脚立がぐらつき転落しそうになった。



- バックホーで残土整理中、重機から降りるときに足を滑らして転倒し、そのまま斜面を滑り落ち、下に置いてあった廃棄用鋼材に激突しそうになった。
- 道路舗装工事中、未施工部分に設置した合板製仮通路の端につまずき、転倒しそうになった。



- 解体工事に伴う産業廃棄物処理作業中、立壁 (2m×1.8m)を処理しようとしたところいきなり立壁が倒れ、激突されそうになった。
- コンクリート製電柱を積載して後進してきたトラックの荷台から、2.75mはみ出した部分に気がつかず、原動機付自転車で激突しそうになった。



- 鋼材をトラックに2人で積み込む作業中、一方の作業者が鋼材から手を離れたため鋼材が落下し、他方の作業者の足に当たりそうになった。
- 基礎工事の資材置場でH鋼材2本をクレーンで吊り上げ、トラックの荷台に移す作業中、鋼材を吊っていたワイヤーが切れて落下した。



- 路上開口部からクレーン車でH型鋼材を引き上げ、作業帯内の路上に仮置き作業中、鋼材が崩れそばにいた合図誘導作業者の足に当たりそうになった。



- 破砕したペレット状のプラスチック廃材が入ったフレコンバッグ(約82kg)をトラッククレーンで約2m吊り上げてブームを回したとき、荷が大きく揺れて地切りをした作業者の頭部に当たり、作業者は荷とトラックのアオリ板との間に挟まれた。
- 鋼板コイルを搬送する際、トラックの荷台の2t用小型転がり防止台に5tのコイルを積んでしまい、コイルが転がり防止台から転落しそうになった。



- 不要材を小型チェーンソーで処理中、炎天下で汗を拭くため首に巻いていたタオルが垂れ下がり、チェーンソーに巻き込まれそうになった。
- バックホーの誘導作業中、通行者が来たのでバックホーを背に通行者の誘導をしたところ、後進したバックホーのキャタピラに足をひかれそうになった。



- バックホーの発動機がオーバーヒートしたため、ラジエーターの補助タンクに水を入れた。その後ラジエーターが冷めたと思い補助タンクの蓋を開けたところ、蒸気が噴出し顔を火傷しそうになった。



このように、いつもなら「このくらいは平気」と感じていることがまさにヒヤリハットです。  
見過ごさずに現場で共有し、不安全行動を取らないよう注意していきましょう。



出典:見せませす・出します「ヒヤリハット事例」～安全衛生活動への参加の見える化～(厚生労働省)

**編集後記**

先日、春野菜や山菜の天ぷらをいただきました。久しぶりに食べた春の山菜は苦みがあってとても美味しかったです。春の山菜にはなぜ苦みがあるのか気になり、調べてみました。山菜独特の苦み成分の正体は「ポリフェノール」だそうです。ポリフェノールには強い抗酸化作用があり、活性酸素を抑えて細胞の若返りを促し、ストレスの改善などにも効果が期待できるといわれています。わらびはビタミンA、こしあぶらはタンパク質や食物繊維が豊富。たららの芽は抗酸化作用の他に血糖値を安定させる成分が含まれており、ウドには鎮静効果があるといわれています。ふきのとうはフキノール酸などのポリフェノールが豊富に含まれていることに加え、胃腸の働きを整えて消化を促す効果もあるようです。

また、春に自然と苦みやクセのあるものを食べたくするのは、人間が活発に行動するようになる春に向けて、冬の寒い時期に溜め込んだ余分な脂肪や老廃物を排除し、身体を整えたいという気持ちになるからだろう。苦味の強いふきのとうやたららの芽は天ぷらで、苦みがそれほど強くないウドやみつばはおひたしで、苦味がほとんどないごみやウレイはそのまましゃぶしゃぶなど、苦みに応じた調理法で春の山菜を楽しんでみてはいかがでしょうか？  
実家では毎年食べていた山菜ですが、最近は食べる機会が少なくなってしまいました。今年は健康のためにも山の春をたくさん、美味しくいただきたいです。

広報部 成澤



今号の表紙写真

お客様の課題解決のために、最善の答えを出す努力を怠らないAKTIO。設立55年目を迎えるこの年をさらなる飛躍の年にするため、今号の表紙写真は高くそびえ立つビル、未来を感じる光のある写真を選びました。これからもますます成長を続けるAKTIOにぜひご期待ください。